

## 令和5年度 市政懇談会(子育て分野)会議録

■テーマ……少子化対策として子育てを考える

■開催日時…12月12日(火) 布津世紀の泉 午後7時30分~9時

12月19日(火) 原城オアシスセンター 午後7時30分~9時

■参加者……12日:22人(深江町、布津町、有家町)

19日:16人(西有家町、北有馬町、南有馬町、口之津町、加津佐町)

本市の少子化対策をテーマに、現在、本市が行っている子育て事業に関する長所や課題などについて、現役の子育て世代からのご意見などをお聴きする懇談会を開催しました。

今回は、市内の保育園および認定こども園の保護者の皆様と、市内2会場で開催し、本市の現状や課題、実施事業などについて懇談しました。

主な内容は、以下のとおりです。

### 南島原市の人口推計と実施している事業について

※別添【令和5年度南島原市市政懇談会資料】を参照

はじめに、南島原市の総人口の推移、将来人口の推計と分析、子育てサービス一覧などについて、資料に沿って説明しました。

#### 【参加者】

・説明された各取り組みに対して市民から声はあるか。

#### 【市】

・今年度導入した「キッズパブリック」を利用して休日や夜間のオンライン相談ができることは助かっているとの声がある。

### 参加者が思う南島原市のいいところ

#### 【参加者】

- ・市外の友人などからも「南島原市は子育て環境として恵まれている」と言われます。
- ・各種助成などもそうだが、保健師などの対応、図書館を気兼ねなく利用できる点はすごくいい。
- ・特に深江図書館の月齢に合わせて絵本をセレクトしてくれる事業はとても助かっている。

#### 【参加者】

- ・第1子を福岡市で出産した。その時は、待機児童問題、夫の仕事環境によるワンオペなど社会的に言われている様々な子育ての問題に直面していたが、現在は南島原市に移住して福岡より恵まれている部分が多いと感じている。
- ・特に母子手帳の受け取り時の保健師さんとの面談など、すごく手厚くて嬉しく思った。
- ・子ども達もこちらの暮らしがまっているのか、生き生きと生活しているように思う。

【参加者】

- ・はじめのいっぽ(初めて子育てする母親と乳児を対象とした講座)に参加できたことはすごく良かった。初めの子育てで右も左もわからない時に、同じ環境のお母さんと話すこと、子育ての先輩からのアドレスなどが聞けて本当にありがたかった。
- ・このような手厚い支援があることをより届けるため、はじめのいっぽのように重要なお知らせは郵送でいただくことはできないか。

【市】

- ・はじめのいっぽのスタッフにも伝えて今後の励みにします。
- ・はじめのいっぽの対象者はこちらで把握できるため、郵送することが可能です。

ご意見・ご質問など

【参加者】

- ・公園などに規制線がある公園があるが、修理する予定はあるか？
- ・ひょうたん池公園(島原市)や百花台公園(雲仙市)などのように公園を整備してほしい。

【市】

- ・皆さんが望むような形で少しでも実現できるように関係各課と意識統一を行いたい。
- ・今年度、みそ五郎公園(西有家町)の大規模改修を行った、その他の公園についても今後修繕を進めていきたい。他に規制線があるなど、遊具が危険と感じる公園はありますか？

【参加者】

- ・諏訪神社下の公園(深江町)、俵石公園(有家町)の木製遊具などです。

【市】

- ・俵石公園はターザンロープの修理を行い、その他の遊具は設置から年数は経過しているが、耐久性には問題は無いと把握しています。
- ・規制線がある公園については、修理の予定がある公園なのでしばらくお待ちいただきたい。

【参加者】

- ・農業を営んでいる身としては、雨の日しか子ども達と遊べないことも多い。
- ・しかし、雨の日だと公園には行けないので、あぐりドーム(長崎市)やこどもの城(諫早市)のような全天候型の遊び場が欲しい。
- ・廃校を利活用してこのような施設にできないのか。

【市】

- ・予算などの問題があり、実施できていない。しかし、現在市では、南島原市多目的運動広場(アリーヴォ)や当日でも予約可能な体育館があるので、まずはこちらを活用していただきたい。

【参加者】

- ・市内の小児科が少ない。また、夜間に受診可能な医療機関など相談できる手段はあるか？

【市】

- ・子どもを育てる環境の中で医師が近くにいる安心感は必要不可欠である。このような環境が足りていない部分があるので、今後も関係機関と連携を取りながら重点的に取り組んでまいりたい。

- ・小児科も少ない状況であるが、本市は人口あたりの医師が少ない現状であり、特に加津佐町は医師がいない状況である。皆さんが望まれているのは、小児科を専門としている医師であると思う。このような声は以前から受けているので、市としても長崎県や公立小浜温泉病院などに要望を行っている状況である。この課題の解決には時間がかかるので、ご理解いただきお待ちいただきたい。
- ・今年度導入した「キッズパブリック」を利用した、小児科医・産婦人科医・助産師に相談できるサービス導入など相談手段の創出に努めているが、治療ではないため、相談手段の一つとして考えていただきたい。
- ・キッズパブリックだけで課題解決ができるとは考えていない。長崎県が来年度から子どもだけではなく、大人の怪我などにも電話にて相談を受け付ける事業を行う予定としている。このような様々な事業を組み合わせることで少しでも不安の解消につながればと思う。

#### 【参加者】

- ・南島原市が少子化を食い止めるために行っていることはあるか。

#### 【市】

- ・市としても「子育てしやすい環境づくり」を目指して様々な事業を行うことで、多くの方が子育てしやすくすることで少子化対策につながるような取り組みを行っている。
- ・本市は長崎県や全国より合計特殊出生率が高い状況である。しかし、出生数が少ないのは、子どもを産み・育てる世代が極端に少ない状況であることが原因である。この世代を増やす取り組みとして、働く場所の創出、移住・定住対策などを行っている。以前は、高校卒業後、進学などで地元を出ても帰って来る人もいたが、現在はそのままその地で就職している状況であるため、本市の子どもを産み・育てる世代が少ない。
- ・働く場所を確保するため、企業誘致や創業支援などの取り組みを行っている。今後も大企業でなくとも多様な企業の誘致・創業を行うことで働く場所の確保に努めたい。
- ・働く場所の確保ももちろんだが、市外に出ても帰ってきたいと思える市にしていきたい。

#### 【参加者】

- ・友人などと話していると、若い世代は結婚に興味がないように感じる。しかし、事実婚やパートナーシップなど様々な形での家族形成はしたいと思っている人が多いと思う。このような人が結婚者と同じような手厚い子育て支援を受けることができれば、移住などの検討対象になるのではないかと。多様性を受け入れた市になれば、様々な人が流入して人口も増えるのではないかと。

#### 【市】

- ・発言いただいた内容は社会的にも議論されている内容でもあるので、遠くない未来には導入を検討する必要があると思われる。
- ・事実婚者なども同じような支援を受けることができるものはある。対象とならないものもあるので、まずは問い合わせいただきたい。また、生殖補助医療については、事実婚者も対象とするように制度改正を行った。少しずつではあるが支援の対象を広げるような取り組みを行っていきたい。

#### 【参加者】

- ・市内の子どもが減少し、特に北有馬町～加津佐町にかけては小学校が1学年1学級しかなかったり、複式学級などがあるために、部活動や学校問題など様々な問題が解決しにくくなっている中で各小中学校の統廃合を早めに進める必要はないのか。

#### 【市】

- ・広報紙 12 月号で掲載したが、これから北有馬町～加津佐町は児童数の減少傾向が高い。将来的には統廃合が必ず必要となるので、年明けを目途に小学生および未就学児の保護者を対象にアンケートを実施する予定である。その後、子ども達の学びの環境がより良くなるように検討してまいりたい。

#### 【参加者】

- ・1世帯で3～4人いる家庭で保育園や小学校をまかなっている気がする。原因はわからないが、人がいないと感ずることが増えた。

#### 【市】

- ・まずは市内で暮らすために仕事は大切であるため、企業誘致や新たな産業の創出などを通して人口増加につなげたいと思っているが、なかなか成果として表れていない現状であるので、これからも努力したい。
- ・年間100人くらいは移住がある状況であるが、それをいかに増やしていくことが大切である。
- ・まずは、市の魅力を上げていくことが大切である。他地域に誇る公園や飲食店などが少ない現状であるので、魅力向上につながるように、皆さんが思う足りないところ、伸ばせるところなどの意見をいただきたい。

#### 【参加者】

- ・中学校の男子は統一的な制服を着ているが、島原で買う方が安い。市内の事業者へお金が落ちる方法はないか。

#### 【市】

- ・中学校の制服については、男子も女子も各学校で指定をしている状況であり、市外の事業者が安い状況であることは把握しているが、今後価格を変更することは難しいと思われる。しかし、現在、制服検討委員会において、LGBT など男女差をなくした制服を検討する必要があるとの声もあるので、市としても各学校の状況を見守っていききたい。

#### 【参加者】

- ・日頃は妻主導で子育てを行っており、今回参加していろいろな支援や制度があることが分かったが、どのような方法で周知を行っているのか。

#### 【市】

- ・広報紙や市ホームページなど様々な形で広報を行っているが、たしかに届いていない部分があるのは実情であるので、情報を集約したガイドブックやネット上で手軽に確認できる手段など皆さんにきちんと届く情報発信を行っていききたい。

#### ご要望について

#### 【参加者】

- ・3歳でもおむつは使用するし、そのほかの出費もかさむため、すくすく赤ちゃん券の対象を3歳まで伸ばしてほしい。
- ・3子への支援が充実していることはわかるが、2子でも大変なのは変わらない。また、子どもが熱を出すと1週間は続くが、夫は休めないで、自分が休む必要がある。このような時の支援があると助かる。
- ・このような夜の会議の際にも託児所を併設していただけるとすごく負担が減ると思う。

- ・多子世帯で支援を受ける機会が多くて大変ありがたいと思っている。就学前の支援が手厚いことは実感しているが、小・中学生の支援をもう少し手厚くしてほしい。
- ・フッ素券のおかげで3カ月に1回歯医者に通う習慣ができたことは大変ありがたかった。3歳までの対象をもう少し伸ばしてもらいたい。
- ・第2子がもうすぐ生まれるが、将来の金銭的な不安がある。生まれた後だけではなく、継続的な手当の充実化を行ってもらうことで不安の解消につながるのではないかと思う。
- ・小学校から中学校、中学校から高校への進学に対する金銭的な負担が大きい場面での負担軽減する補助などを行ってほしい。

#### 【市】

- ・子育て世帯に対する支援については、今年、こども家庭庁やこども未来戦略方針、児童手当の第3子の増額など国が支援の充実化を図るように舵を切っている。
- ・これまで都道府県や市町で行っていた独自のサービスを国が主導で行うようにしている。国がカバーできない部分を市町が行うように現在頑張っているところである。
- ・経済支援対策については、今後3年間で様々な支援があると思われる。このような支援をしっかりと皆さんにお知らせし、カバーできない部分をサポートしていきたい。
- ・日頃皆さんが悩まれている部分をお伺いすることができ、思いは受け取ったので、今後関係各課と検討してまいりたい。

#### 【参加者】

- ・島原市が実施している新入学児童に対するランドセル配付などを行う予定はあるか。

#### 【市】

- ・市が統一的なランドセル配付は導入を検討したが、「支給品を使う・使わない」は個人の自由となるため、使用者の気持ちを鑑みて本市では導入しないこととした。

#### 【参加者】

- ・中学校～保育園と年の差がある子どもがいるため、第3子までが小中学校にいる場合の給食費無料の対象とならない。児童手当などの第3子の考え方の変更があっているが、今後変更になる可能性はあるか。

#### 【市】

- ・この制度は、3人同時に給食費を支払う世帯の負担を軽減するために創出した制度であるため、現在のところ第3子の考え方については変更の予定はありません。

#### 【参加者】

- ・給食の量が少なかったり、おいしくないと聞くことがある。

#### 【市】

- ・物価高騰などで原材料費が高騰している中、給食費の負担が増加しないように市の予算を投じて据え置いている実情がある。また、アンケートなどでもそういった声はあるが、「おいしい」などの肯定的な意見が多い状況である。
- ・給食献立委員会を毎学期開催し、学校から児童生徒や保護者の声を吸い上げたときにそのような声があるのは事実である。今後もこのような声を大事にして献立の改善について検討していきたい。

【参加者】

- ・英語検定補助について、年1回の回数制限を増やすことはできないか。

【市】

- ・現在、補助は1回、受験可能回数は複数回となっている。グローバルな人材育成のため県内でも先進的に導入した経緯があり、このような声をいただき、今後の検討課題とさせていただきます。
- ・英語教育については、より充実化するため ALT だけではなく、市独自の EAT 制度を導入している。
- ・幼少期から英語に触れる機会を増やすことを目的に、英語が達者なフィリピンの高校教師を招へいして小学校に配置し、昼休みや休み時間も含めて英語に親しむ機会を増やす事業が EAT である。
- ・3人で週1~2回全小学校を回って、小学生に英語を教えている。ALT は多様な職種から採用されている人が多いが、EAT は元高校教師であるため、教えるのが非常に上手である。今後は小学校で培った英語力を中学校・高校で更に高めていく取り組みを検討していきたい。
- ・英検にチャレンジすること、英語力を身につけることを目的にこの助成制度を導入した。回数の増加などの声を聴くことができたので、今後も英語力の向上につながる取り組みを行っていきたい。

【参加者】

- ・子どもがしたいスポーツが生徒数の減少が原因で、連合チームやクラブチームでの活動を余儀なくされているが、送迎などがあり、子どもに我慢してもらっている現状がある。休日限定でもいいので、部活の送迎などにスクールバスを活用することはできないか。
- ・通っている学校の部活が部員不足で休止状態であるため、クラブに行っているが費用が部活よりかかるので、支援を行ってほしい。

【市】

- ・中学校の部活から地域クラブへの移行は、現在社会的に検討されているので、本市に即した方法を検討していきたい。

【参加者】

- ・不妊治療について、支援はありがたいが、費用が高かったり、仕事との調整などすごく大変な思いをすることが多いので、補助以外の支援もあると助かる。

【市】

- ・様々な形で支援を行っているところであるが、費用や仕事、心など支援が足りていない部分があるのは事実である。市としても子どもを望む人が授かることができるように支援を行ってほしい。
- ・助産師にスマホで相談できるサービスや市役所にも助産師・保健師もいるので、少しでも不妊に悩む人はお気軽に相談してほしい。

【参加者】

- ・市内図書館でもっと気軽に借用ができるように電子書籍で貸し出すサービスなどを検討してもらいたい。

【市】

- ・DX 推進に絡めて電子図書の導入を検討していきたい。

【参加者】

- ・島原半島内で子育ては南島原市など区分けを行い、連携した取り組みを行うことはできないのか。

【市】

・区分けなどは具体的な話はないが、連携できる部分は連携していきたい。

【参加者】

・具体的に合同会社や株式会社などの話は出ていないのか。

【市】

・現在は各市がそれぞれの魅力を PR する形で各市が市政に取り組んでいる状況である。